



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.3
令和2年5月25・26日
文責：校長 福島

おかえりなさい！



子供たちが学校にもどってきました。こんなにうれしいことはありません。79 日ぶりということになります。私は 30 年以上学校に勤めていますが、こんなことは初めてです。子供がいない学校が、これほど寂しいものかと感じました。当たり前と思っていたことが当たり前でなくなったこの 79 日間、いろいろなことを考えました。

「学校って何なんだろう」「学ぶって、どういうことなんだろう」

休校中は家庭学習を中心に学習を進めました。先生と子供、子供と子供のつながりをなくさないようにオンラインによる朝の会を行いました。一定の成果はあったと思いますが、難しさもとても感じていました。

分散登校を始めたこの 2 日間、教室での先生と子供、子供同士の交流を見ていて、同じ空間で感じ合うことの大切さを改めて感じています。先生を信頼し、友達を信頼し、その中で培われる温かいつながりを核として互いに刺激し合いながら成長していく場が「学校」です。そしてその成長を自分で自覚し、自信をもってさらなる成長を目指していくのが「学び」です。

分散登校が始まる前日、私は先生たちに『やっぱり学校はいいな。先生や友達がいるっていいな。』子供たち全員がそう思えるようにしましょう。』という話をしました。中には学校に足が向きにくい子供がいるのも事実です。休校中に取り組んだオンラインは、つながりを作る一つの方法として使えるのではないかと考えています。

2 日間見てきて、子供たちはまだ緊張しています。日常を取り戻すにはもう少し時間がかかりそうです。ウィルス感染対策をしっかりと行い、子供の心と体のケアに努めながら 653 人誰一人取り残すことなく最大限に学びを保障していきます。